平成３１年度研究科入学者選抜試験問題（第１次）出題意図
《医学系研究科　看護学専攻　博士後期課程》

外国語（英語）

出題意図

大学院の到達目標の一つである論文化に関するテーマを含む英語を出題した。研究に関わる英文を理解する事が大学院履修にとって必要であると考え，読解力と簡潔にまとめる能力を測る目的で出題した。

解答

問１　１）

１：科学者のコミュニティ（科学者たち）が，査読者や編集者の考え方を学ぶ。

２：社会学者が査読に関する（例えば，査読者による査読バイアス）データを収集することを可能とする。

３：若い科学者たちは，査読を手本として学ぶことが出来る。

問２

２）懸案の一つは，たとえ，公にされた査読が無記名であったとしても，査読者がその仕事を引き受けることを嫌がったり，自由に批判意見を述べることを躊躇うかもしれないことである。なぜならば，論文の筆者が，想定される査読者（おそらくこの人であろうと思われる査読者）を非難したり，復讐をすることがありうるからである。

３）科学は批判と反対意見によって前進する。この重要なプロセスを明らかなものとすること（open review）は，一部の人には心地よくないだろうが，科学にとっては健全なステップである。

問３

少数のマイノリティーに属する筆者たちの論文が，偏った査読を受け得ること。

問４

科学雑誌の査読結果は公開すべきであり，一方で，論文の筆者の背景（人種，出身国）が査読者のフィードバックへ影響するのか，そしてそれはどのように影響するのかを科学者たちが考えることが重要。